

街を行く

第93回 シカゴ (その2) Chicago

両巨匠の魂が息づく街

シカゴのユニオンステーションから郊外電車で40分程揺られれば、喧騒から解放された静かな田舎町「オークパーク」に到着です。田舎町とはいえ、田園風景ではなく落ち着いた雰囲気住宅街で、駅前にお洒落なブティックやカフェが並び、来る人をやさしく迎えてくれます。この街を有名にしたのは、帝国ホテルの設計で有名な世界的建築家のフランク・ロイド・ライトです。彼の自宅と隣接したアトリエ（設計事務所）は記念館として、建築家の聖地になっています（そういえば、親しい建築家がここを訪れたと話していました）。彼はここで多くの弟子たちを育て、また多くの作品を残しています。駅前から続くメイン通りの両サイドには、彼ならではの建物が多く、まるで建築の美術館のようです。当然作品は住宅ですから、今もそこには人が住み続けています。自宅の設計がフランク・ロイド・ライトだなんて、信じられないですよね。なんてラッキーなのでしょう。彼の自宅ですが、日本の木造住宅を思わせる造りで、調度品や装飾品も日本から持って来ている。日本が好きだったのですね。

この街にはもう一つの顔があります、それはヘミングウェイです。本連載「キーウェスト」（フロリダ州）の項で、彼の暮らしていた家取材し記事にしたことがあります。今回この街で出会ったのは生家です。実際にはヘミングウェイの祖父が建てた家で、幼少期をここで過ごしています。説明するまでもありませんが、ヘミングウェイはノーベル賞を受賞している米国の国民的な作家です。案内のツアーでは、豪邸で



フランク・ロイド・ライトの家(上)とアーネスト・ヘミングウェイの家(右)。長閑な田舎町と調和して心が癒やされる



はないのにもかかわらず一時間半も費やして丁寧に説明してくれます。小生は内心「そこまで説明しなくても…」と思っていたのですが、ツアーに参加していた米国人は熱心に聞き入り詳細を質問していました。

フランク・ロイド・ライト記念館やヘミングウェイの生家を訪ね歩くと、ちょうど街を一周したことになります。このような街は、本当に訪れただけで気持ちが癒されます。街には色々な顔がありますが、“癒し”も大きな顔の一つです。大都会の喧騒の横には、必ず優しく包んでくれるような場所が必要なのです。小生も包まれついでにピザハウスで一休みしましたが、素朴な店の素朴な味もまたオツな物でした。

南 一 弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役役に就任。